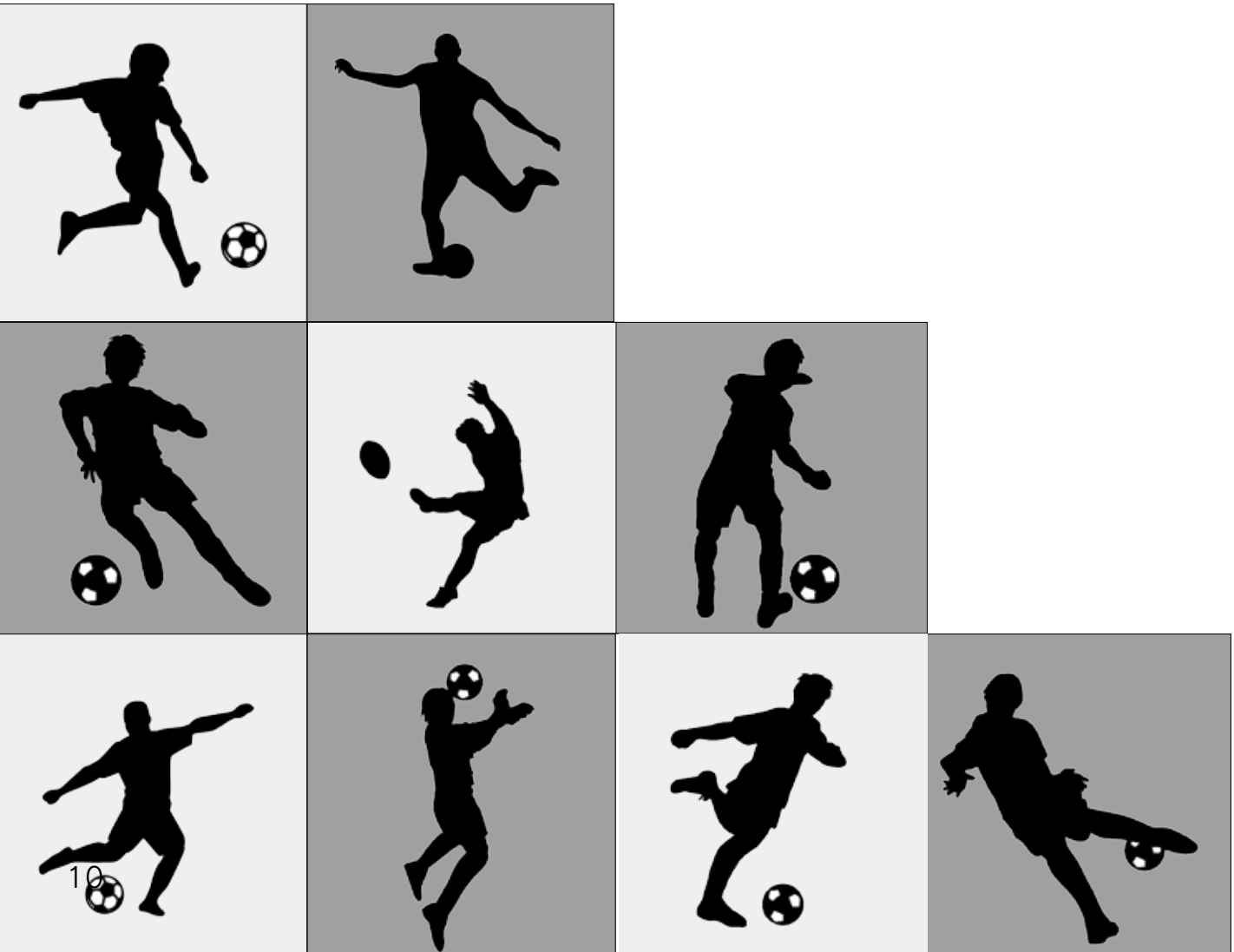
第２章
スポーツ推進の現状と課題



１　市民スポーツの現状と課題

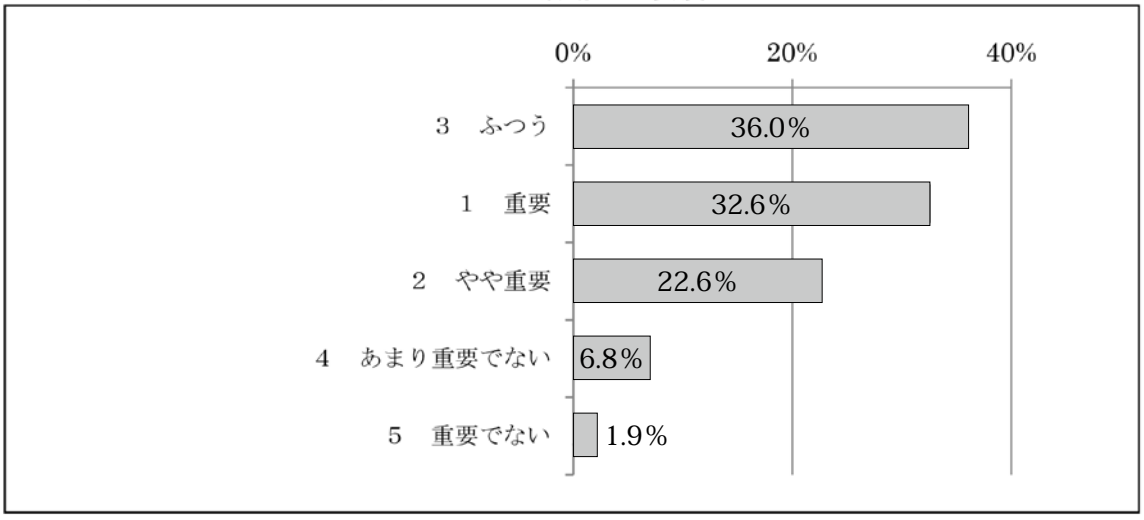
（１）　市民のスポーツに対する関心や実施状況

現　状

本計画の策定に当たり、市民のスポーツに関する意識や関わり方を把握するために、平成２８年（２０１６年）９月に『「スポーツやレクリエーション」についてのアンケート』を行いました。

アンケートによると、健康を保持・増進するためにはバランスのとれた食生活、十分な休養や睡眠とともに適度な運動が必要であることはよく知られており、５５．２％の人が日常生活でのスポーツやレクリエーション活動の重要度を感じています。

図１　スポーツやレクリエーション活動の重要度



（「スポーツやレクリエーション」についてのアンケート）

「実践（行う）」

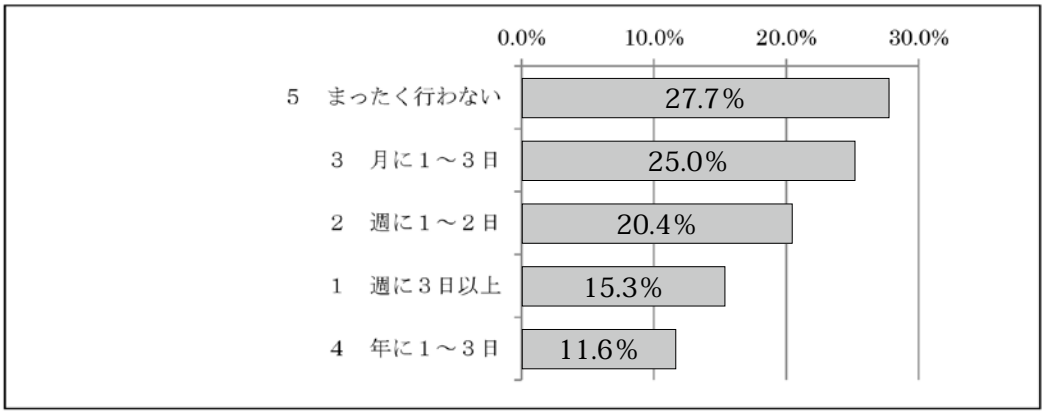
「週に１日以上」スポーツやレクリエーション活動を行っていると回答した人が３５．７％であり、種目としては、「ヨガ」、「軽い運動（ラジオ体操など）」や「軽い水泳（水中運動など）」といった少人数でも行うことのできるものが多くなっています。

また、組織的な取組も盛んで、公益財団法人熊谷市体育協会と熊谷市レクリエーション協会の加盟団体に登録している人は、１３，０００人を超えており、定期的に練習を行い競技会や発表会に参加するなど積極的にスポーツ・レクリエーション活動に取り組んでいます。

一方、「忙しくて時間がない」や「健康上の理由」等から「まったく行わない」と回答した人が２７．７％でした。年代別に見ると、６０歳以上の実施率が低くなっています。また、日常生活における自身のスポーツ・レクリエーション活動の重要度が低いと考える人の割合は８．７％にとどまり、重要とは認識しているものの実践できない状況が見受けられます。

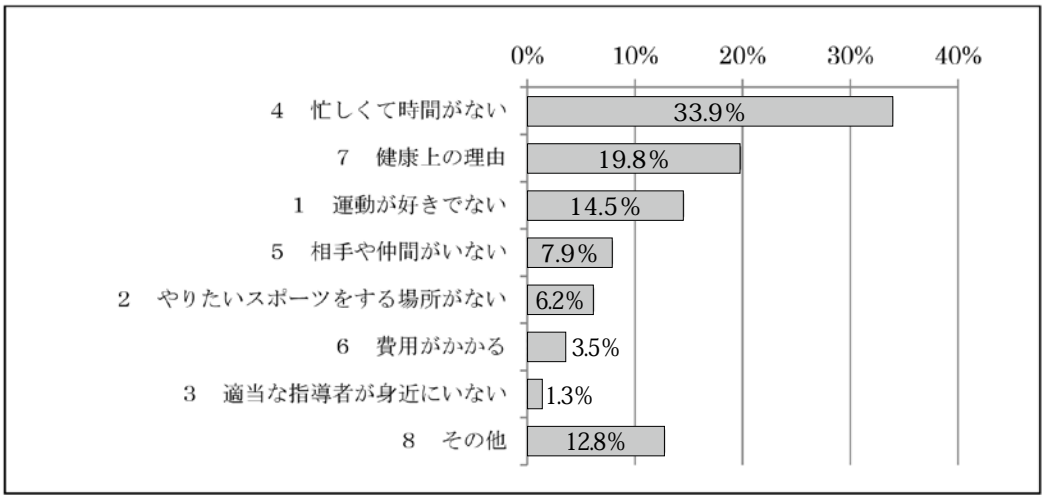
今後のスポーツ推進に関する施策に関しては、「総合型地域スポーツクラブの育成・支援」や「スポーツ施設の有効活用を図る」等、気軽にスポーツに親しむことができる環境づくりを期待する回答が多くなっています。

図２　１年間にスポーツやレクリエーションを実施した頻度



（「スポーツやレクリエーション」についてのアンケート）

図３　まったく行わなかった理由



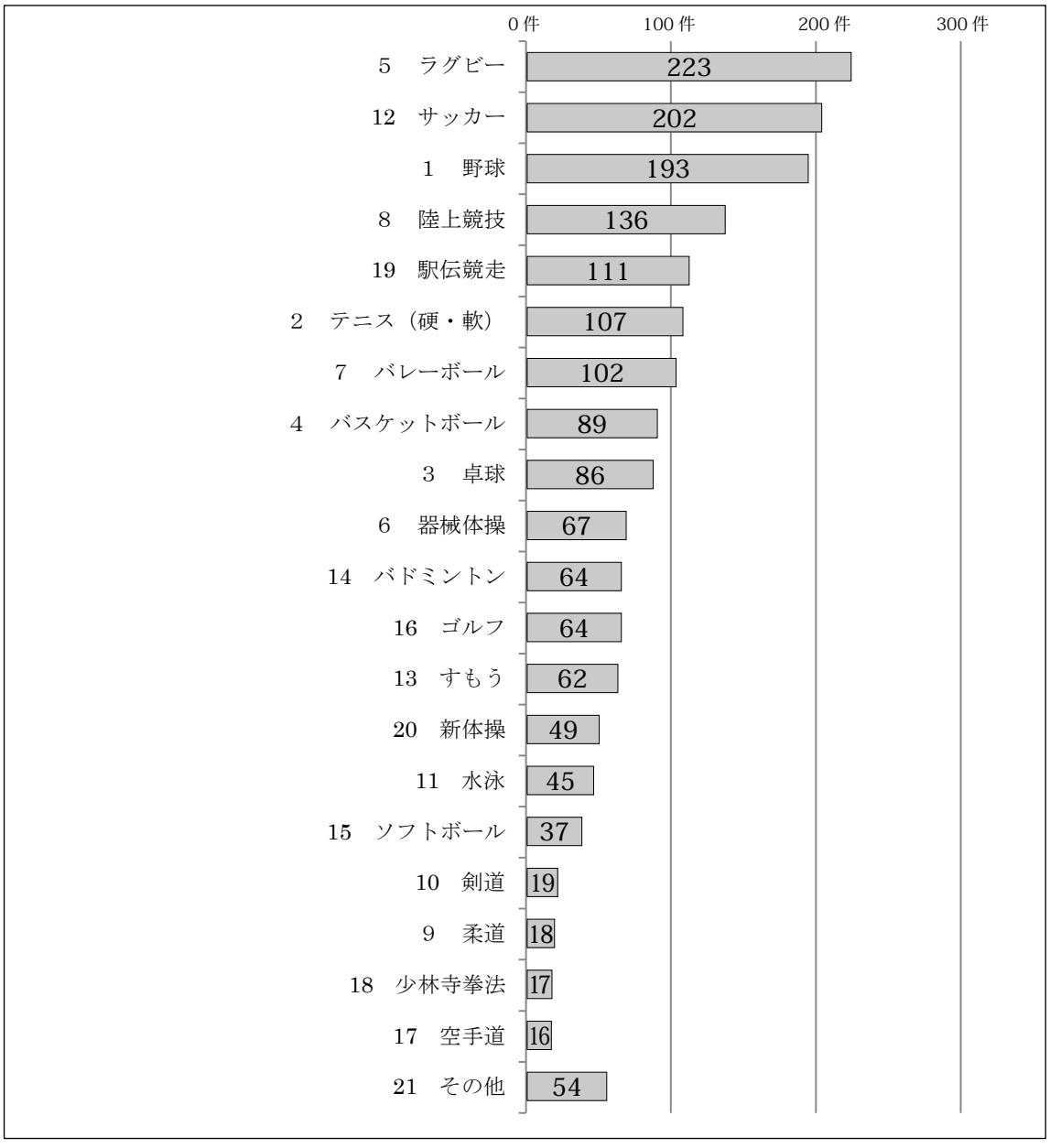
（「スポーツやレクリエーション」についてのアンケート）

「応援（見る・感動する）」

最近の一年間でスポーツ観戦をした人(テレビ観戦を除く)は３４．２％で、種目別に見ると「プロ野球（独立リーグを含む）」が最も多く、「サッカー」、「駅伝競走」と続いています。市内でも、陸上競技・駅伝競走、サッカーＪリーグやラグビートップリーグ等国内トップレベルの競技が数多く開催されています。

今後、本市で開催してほしいと思う大規模なスポーツ大会・イベントとしては、「ラグビー」、「サッカー」、「野球」が多く挙げられています。

図４　今後、熊谷市で開催してほしいと思う大規模なスポーツ大会・イベント



（「スポーツやレクリエーション」についてのアンケート）

「協力（支える）」

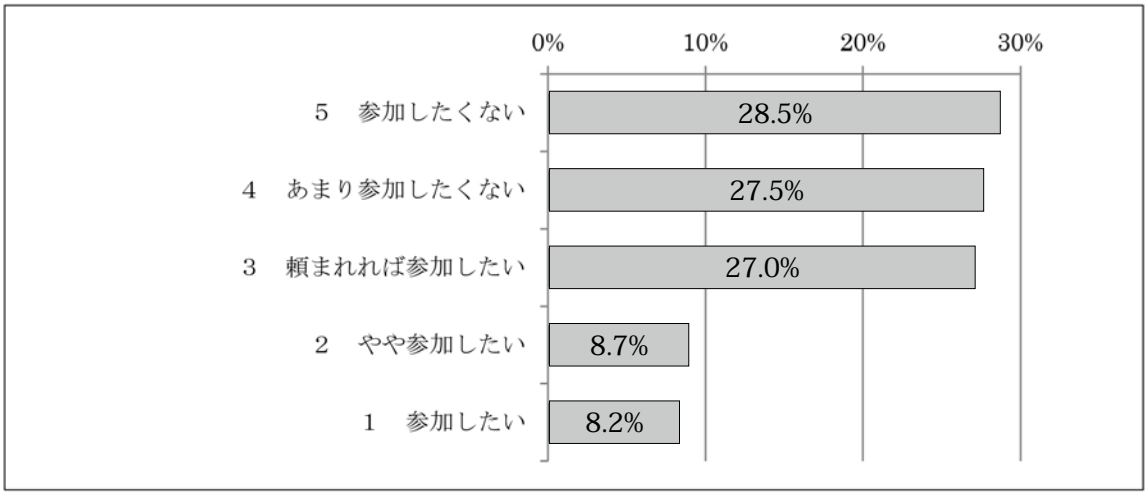
本市で開催されるスポーツイベントは、交通整理や参加者へのおもてなし等、多くのボランティアに支えられ、運営されています。

しかし、スポーツボランティアの経験が「ある」という回答は１３．７％、今後ボランティアとして「参加したい」、「やや参加したい」という人はあわせて１６．９％にとどまりました。

図５　平成２８年度（２０１６年度）主なスポーツイベントのボランティア役員数

主なスポーツイベント	従事者数
東日本実業団対抗駅伝競走大会	４１１人
熊谷めぬま駅伝競走大会	２１５人
埼玉県駅伝競走大会	２０８人
熊谷さくらマラソン大会	１，１３６人

図６　今後、スポーツ・ボランティアとして活動したいか。



（「スポーツやレクリエーション」についてのアンケート）

課　題

今までスポーツをしていなかった市民に対して、日常の生活に身体活動を取り入れるはたらきかけをして、実施率を高めていくことが課題となっています。

また、要望の高い種目の大会を誘致し、さらに多くの市民が観戦に訪れたり、ボランティアに参加したりできるように、スポーツに親しみをもってもらえるような情報発信の工夫が必要となっています。



熊谷さくらマラソン大会　大会ボランティア

（２）　高齢者のスポーツ

現　状

本市では、高齢者や体力に自信がない等の理由から軽い運動を好む方を対象にして、公益財団法人熊谷市体育協会や熊谷市レクリエーション協会等と連携し、卓球、テニスやバドミントン等のスポーツ教室やターゲット・バードゴルフ、民踊等レクリエーション種目の初心者講習会を開催しています。

また、ゲートボール、グラウンド・ゴルフやターゲット・バードゴルフ等を実践している市民は多く、公益財団法人熊谷市体育協会や熊谷市レクリエーション協会の加盟団体が大会を実施するなど、高齢者の健康づくりと交流機会を提供しているほか、公民館では、高齢者体力測定会、ウォーキングやハイキング等のスポーツ・レクリエーション活動を実施しています。

課　題

高齢者や体力に自信がない市民に対しても、それぞれの体力などに合わせて継続的に運動に取り組んでいくことができ、また、現在運動していない市民が運動に取り組んでいくことができるよう、情報発信や啓発活動が必要となっています。

（３）　障害者のスポーツ

現　状

本市では、障害者の体力の維持・増進及び社会参加の推進を図るため、多様なスポーツ活動への参加機会の拡大を図っています。

彩の国ふれあいピック春季･秋季大会や全国障害者スポーツ大会等の選手募集をはじめ、埼玉県障害者スポーツ協会の加盟団体等が主催する各種スポーツ教室への参加のお知らせを行っています。

また、年に１回、特定非営利活動法人熊谷市身体障害者福祉会が中心となって「ふれあい運動会」を開催しています。

課　題

障害者がスポーツ活動に取り組むことができるよう施設を整備していくことや実践可能な運動を紹介したり、彩の国ふれあいピック等のイベントへの参加を広く呼びかけたりして、運動の機会を増やす工夫が必要となっています。

２　児童・生徒の現状と課題

（１）　児童・生徒のスポーツに対する関心や実施状況

現　状

本市では、国・県の意向を受け、昭和５３年度に熊谷市体力向上推進委員会が発足して以来、市と各学校の連携を深めながら、児童・生徒の体力向上や健康安全に関する調査研究・取組等を行い、「学力（知・徳・体）日本一」を体力の面で実現すべく取り組んできました。

また、平成２７年度（２０１５年度）から教師の指導力向上と児童・生徒の体力の向上を目的として、体育指導専門員を全小・中学校に派遣し、体育授業の指導に直接あたっています。

その成果もあり、平成２８年度（２０１６年度）の新体力テストの結果において、小・中学校合わせて１４４項目（小学校６学年×８種目×２男女、中学校３学年×８種目×２男女）中、計１３６項目で県平均を超えました。目標値の８０％を大きく上回り９４．４％の項目で、県平均を超えるという、今までにない好記録を達成し、県内でもトップクラスとなっています。埼玉県が全国上位に位置することを考えると、本市児童・生徒の体力は、着実に向上傾向を示しており、日本一に近づいています。

図７　平成２８年度新体力テスト　熊谷市平均値と埼玉県平均値との比較

男子	小学校（48 項目）						中学校（24 項目）		
	1	2	3	4	5	6	1	2	3
握力	○	○	○	○	○	○	○	○	○
上体起こし	○	○	○	○	○	○	○	○	○
長座体前屈	○	○	○	○	○	○	○	○	○
反復横とび	○	○	○	○	○	○	○	○	○
持久走							×	○	×
20mシャトルラン	○	○	○	○	○	○			
50m走	○	×	○	○	○	○	－	○	－
立ち幅とび	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ボール投げ	○	○	○	○	○	○	○	○	○
上回った項目数	47						20		
上回った割合	97.9%						83.3%		

女子	小学校（48 項目）						中学校（24 項目）		
	1	2	3	4	5	6	1	2	3
握力	○	○	○	○	○	○	○	○	○
上体起こし	○	○	○	○	○	○	○	○	○
長座体前屈	○	○	○	○	○	○	○	○	○
反復横とび	○	○	○	○	○	○	○	○	○
持久走							○	×	×
20mシャトルラン	○	○	○	○	○	○			
50m走	○	○	○	○	○	○	○	○	×
立ち幅とび	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ボール投げ	○	○	○	○	○	○	○	○	○
上回った項目数	48						21		
上回った割合	100.0%						87.5%		

男女合計	小学校	中学校	小中合計
合計　上回った項目数	95	41	136
合計　上回った割合	98.96%	85.42%	94.40%

○・・・県平均値を上回っている
×・・・県平均値を下回っている
－・・・県平均値と同じ

また、「朝ごはんをしっかり食べることができれば、自ずと他の活動もできるようになる」と考え、本市では、「熊谷の子どもたちは、これができます！『４つの実践』と『３減運動』」を続けてきました。その取組が評価され、平成２８年度（２０１６年度）文部科学大臣表彰を受けました。アンケート結果によると、本市児童・生徒の「ほぼ毎日、朝食を食べる割合」は、９７．６％と高水準を維持しております。また、ＨＱＣシート（ヘルス・クオリティ・コントロールシート）を活用した取組を通じ、一層の生活習慣の改善や食育の充実を目指しています。さらに、スポーツに対する関心を高めるために、子供たちに明確な個人目標をもたせる授業を展開し、総合的な体力・運動能力の向上に取り組んでいます。

小学校では、平成２９年度（２０１７年度）からアルカス熊谷の協力のもと、すべての学校でタグラグビー教室を実施しています。また、小学校５年生を対象とした「親善タグラグビー大会」、教員を対象とした指導者講習会や審判講習会を通じ、「ラグビーワールドカップ２０１９」への機運の醸成と運動好きな子供の育成を図っています。

中学校の部活動においては、平成２９年度（２０１７年度）の部活動加入率は９４．９％と高い加入率を示しています。また、本市では、外部指導者による専門的指導の充実及び教師の指導力の向上を目指し、熊谷市部活動地域連携事業を推進するとともに、平成２８年度（２０１６年度）からは、熊谷市運動部活動支援員活用事業を導入し、一層の指導の充実を図っています。その結果、ラグビー、陸上競技、柔道など全国・関東大会に出場している部も数多くあり、世界を舞台に活躍するアスリートも輩出しています。

課　題

今後は、児童・生徒一人一人の課題を明確にし、その課題にあった取組を工夫するなどの授業改善を通じ、さらなる体力の向上を図るとともに、運動好きな子供を育てていくことが課題となっています。

（２）　学校外でのスポーツ活動

現　状

児童・生徒がスポーツに親しめる場として、熊谷市スポーツ少年団や熊谷市スポーツ教室、総合型地域スポーツクラブ、学童野球のほか各種目のクラブチームなどがあり、多くの児童・生徒が参加しています。

また、地域による子供たちの健全育成を目的とする熊谷市子ども会育成連絡協議会では、各地区子ども会単位でソフトボール、フットベースやドッヂボールのチームを編成し、地域の方の熱心な指導の下、年間を通して活動しており、同協議会が主催する球技大会も開催されています。

さらに、放課後子供教室推進事業では、文化的な活動とともにスポーツ体験や球技大会が開催されています。

そのほか、スイミングスクールなど民間のスポーツクラブで活動している児童・生徒もいます。

一方、体育授業以外でのスポーツ・レクリエーション活動への満足度が、場所や時間がない等の理由から、７０％を下回っています。

課　題

いろいろな種目のチームが数多く組織され活動をしていますが、少子化が進行する中で、いかに活動を充実させていくか、必要となる経費も含めて、運営の工夫が必要になっています。

また、スポーツ関連団体と連携して学校外で運動に取り組むことができる受け皿の充実を図ることが必要になっています。

総合型地域スポーツクラブ

総合型地域スポーツクラブとは、人々が、身近な地域でスポーツに親しむことのできる新しいタイプのスポーツクラブで、⑴子供から高齢者まで（多世代）、⑵様々なスポーツを愛好する人々が（多種目）、⑶初心者からトップレベルまで、それぞれの志向・レベルに合わせて参加できる（多志向）、という特徴を持ち、地域住民により自主的・主体的に運営されるスポーツクラブをいいます。

３　スポーツ関係団体の現状と課題

（１）　公益財団法人熊谷市体育協会

現　状

大正８年（１９１９年）に熊谷町体育会として創立、昭和２２年（１９４７年）に熊谷市体育協会に改組、昭和６０年（１９８５年）４月に財団法人となりました。その後、新熊谷市の誕生に伴い、大里町体育協会、妻沼町体育協会及び江南町体育協会と統合し、平成２３年（２０１１年）１１月に公益財団法人に移行しました。平成２９年（２０１７年）４月現在、加盟団体は２８団体で、会員数は１２，０００人を超えています。

市民の心身の健全な発達､健康で明るい市民生活の向上と発展に寄与するため、体力づくりの推進、熊谷市総合体育大会、各種スポーツ教室の実施、広報紙「スポーツ熊谷」の発行、スポーツ功労者や優秀選手の表彰のほか、市内で開催されるスポーツ大会の運営支援等、様々な事業を行っています。

また、本市から指定管理者として委託を受け、市民体育館、東部体育館、別府体育館、大里体育館、江南体育館、籠原体育館、大里総合グラウンド及び江南総合グラウンドの管理運営を行っています。

課　題

若手指導者の育成や専門的な知識・技術を習得するための研修の充実等、スポーツにおける競技力の向上や一層の普及振興を目指した取組が必要となっています。

図８　公益財団法人熊谷市体育協会加盟団体　（平成２９年（２０１７年）４月現在）

野球連盟	ソフトテニス連盟	卓球連盟
バスケットボール連盟	ラグビーフットボール協会	体操協会
バレーボール連盟	陸上競技協会	弓道連盟
柔道連盟	剣道連盟	水泳連盟
スキー連盟	山岳連盟	サッカー協会
相撲連盟	バドミントン協会	ソフトボール協会
射撃協会	テニス協会	ゴルフ連盟
グラウンド・ゴルフ協会	空手道連盟	ゲートボール連盟
少林寺拳法連盟	小学校体育連盟	中学校体育連盟
高等学校体育連盟		



熊谷市総合体育大会（野球）



熊谷市総合体育大会（陸上競技）

（２）　熊谷市レクリエーション協会

現　状

平成２９年（２０１７年）４月現在、部門（種目）は１０部門、加盟団体は５５団体で、会員数は１，４００人を超えています。

「レクリエーション活動を通して市民の心身の健康増進を図るとともに、レクリエーション関係団体相互の親睦と連帯を深め、本市レクリエーション活動の振興に寄与すること」を目的とし、主な行事としては、国体開催記念熊谷市スポレクフェスティバルに参加するほか、レクリエーションの集いが熊谷文化創造館さくらめいとを会場に盛大に開催されています。

また、部門ごとに初心者を対象とした講習会が毎年開催されており、レクリエーションに取り組む市民の裾野を広げているほか、年１回「レク協だより」を発行し、活動を情報発信しています。

課　題

グループごとに行われている活動を市民に紹介する広報活動を一層充実させて、会員を増やしていくことや組織の自立性を一層高めていくことが課題となっています。

図９　熊谷市レクリエーション協会加盟部門　（平成２９年（２０１７年）４月現在）

リズム体操	民踊	現代舞踊
カラオケ	ターゲット・バードゴルフ	フラダンス
鳴子踊り	和太鼓	民謡
太極拳		



レクリエーションの集い

（３）　熊谷市スポーツ少年団

現　状

平成２９年（２０１７年）４月現在、登録団数は３９団体、１，１００人を超える団員と指導者３１２人で構成されています。

それぞれの団が技術の向上と人間形成を理念に活動を展開しており、市内の少年団が一堂に会して、団を越えた交流を目的とした行事「親子フェスタ」と「団対抗駅伝大会」を開催しています。

また、指導者の資質向上のための認定員講習会や資格取得のための認定員養成講習会、保護者の理解を深めるための母集団研修会を開催して、スポーツ少年団の理念に基づいた団運営の充実に努めています。

熊谷市スポーツ少年団や各団のホームページを作成して活動の様子を広報したり、イベントに団員以外の子供も招いたりして情報提供に努めています。

課　題

少子化の進行に伴い、団員数が減少傾向にあり、一緒に活動する子供たちを増やしていくための工夫が必要になっています。

また、組織の自立性を一層高めていくことが課題となっています。

図１０　熊谷市スポーツ少年団登録種目　（平成２９年（２０１７年）４月現在）

サッカー	ミニバスケットボール	バレーボール	野球
ソフトテニス	空手道	剣道	水泳



団対抗駅伝大会

（４）　総合型地域スポーツクラブ

現　状

平成１７年度（２００５年度）に財団法人日本体育協会（当時）の育成指定クラブ委託事業に市内の団体が応募し、現在「熊谷リリーズ・ふぁいぶるクラブ」と「ピースふぁいぶるクラブ」の２つの総合型地域スポーツクラブがあります。ライフステージに応じたスポーツ活動の場や地域コミュニティ形成の場として幅広い年齢層で構成されています。

「熊谷リリーズ・ふぁいぶるクラブ」は、スポーツ少年団の女子サッカーチームをもとに設立されており、サッカーを中心にしながら他の種目のスポーツも楽しみ、仲間と交流を深めています。

「ピースふぁいぶるクラブ」は、多くの加盟サークルが活動に励んでいます。また、年に一度、全体で集まって「クラブフェスタ」や「菜の花ウォーク」、春秋の合同ハイキングを開催し、サークル間の交流を図っています。

課　題

上記２つのクラブは平成１９年度（２００７年度）に設立されましたが、その後、新たなクラブ誕生の動きが見られません。総合型地域スポーツクラブの育成・支援を推進する体制をつくり、市民が身近に参加でき自主的に運営される総合型地域スポーツクラブを育成することが必要となっています。

また、既存のクラブでは、地域住民に活動の様子を知らせたり、地域住民が気軽に参加できる機会を設けたりするなどの活動を一層充実させ、地域に根ざしたクラブの運営が期待されています。



熊谷リリーズ・ふぁいぶるクラブ



ピースふぁいぶるクラブ

４　スポーツ行政の現状と課題

（１）　熊谷市スポーツ熱中都市宣言の推進

現　状

本市は、平成１６年（２００４年）に開催された「彩の国まごころ国体」や平成１７年（２００５年）１０月の新「熊谷市」のスタートを機に、平成１８年（２００６年）７月、「熊谷市スポーツ熱中都市」を宣言しました。この宣言のもと、熊谷さくらマラソン大会や熊谷めぬま駅伝大会、スポレクフェスティバルをはじめとした様々なスポーツイベントを開催し、市民がそれぞれの立場からスポーツを「実践」「応援」「協力」する機会になっています。

また、全国選抜高等学校ラグビーフットボール大会や東日本実業団駅伝競走大会、サッカーＪリーグ公式戦等の開催に当たっては、地元市として積極的に協力しながら円滑な運営と広報・集客に努めるとともに、市民にとって魅力あるスポーツイベントが市内で開催されるよう誘致に努め、市内の関係団体や支援者と連絡調整を図っています。

図１１　熊谷市で開催される主なスポーツイベント

熊谷さくらマラソン大会	全国高等学校選抜ラグビーフットボール大会
熊谷めぬま駅伝大会	選抜高校女子サッカー大会めぬまカップ in 熊谷
東日本実業団対抗駅伝競走大会	埼玉県駅伝競走大会
埼玉スカイスポーツフェスタ	熊谷市スポレクフェスティバル



熊谷めぬま駅伝競走大会


選抜高校女子サッカー大会めぬまカップ in 熊谷

「実践（行う）」

競技スポーツを志向する市民や自己の記録に挑戦する市民を対象に熊谷市総合体育大会や熊谷さくらマラソン大会等を開催しています。健康づくりを志向する市民向けには、市民体力測定会等のイベントを行っているほか、市内各地のウォーキングコースを紹介して身近な場所でのウォーキングを奨励しています。

また、スポーツに親しむきっかけづくりとして、子供から大人、高齢者まで幅広い年齢層の市民を対象にして、公益財団法人熊谷市体育協会加盟団体による各種スポーツ教室や熊谷市レクリエーション協会各部門による初心者講習会が毎年行われ、多くの参加者が指導を受けながらスポーツに親しんでいます。

「応援（見る・感動する）」

熊谷スポーツ文化公園にある陸上競技場や彩の国くまがやドーム、熊谷ラグビー場では、その充実した施設を生かしてプロスポーツや実業団等の競技が行われています。熊谷さくら運動公園野球場では、本市を本拠地とするＢＣリーグ武蔵ヒートベアーズや高校野球の試合が行われています。また、７人制女子ラグビーチームであるアルカス熊谷の活動拠点であるなど、様々な競技を身近に観戦することにより感動を味わい、「応援」することができます。

「協力（支える）」

スポーツ関連団体や熊谷市スポーツボランティアバンク登録者を中心としたボランティアの皆さんに、熊谷さくらマラソン大会や熊谷めぬま駅伝大会などの役員・係員として大会を支えていただいています。

また、熊谷市スポーツ推進委員や熊谷市交通指導員の方々の協力も、スポーツイベントを開催する上で欠くことのできないものとなっています。

課　題

「実践（行う）」

市民のニーズに合ったスポーツ活動の機会を市民との協働で提供していくことや現在行っている大会やイベントを一層充実させることが必要となっています。

「応援（見る・感動する）」

市内で開催される大会やイベントの情報がより多くの市民に知ってもらえるような広報やより関心を高めるための情報発信の工夫が必要となっています。

「協力（支える）」

スポーツボランティアとして一般の市民の方が参加しやすくなるように、募集にあたってボランティア活動の内容をわかりやすく示すことや活動の魅力など情報の発信に努め、スポーツボランティア人口を増やすとともに、ネットワークづくりにも取り組むことが必要となっています。

熊谷市スポーツボランティアバンク

生涯にわたるスポーツ活動推進の担い手として、スポーツボランティアの活動を支援するための制度で、スポーツイベントの主催者の要請に応じて、登録者に情報を発信しています。

スポーツ推進委員の役割

スポーツ推進委員は、スポーツ基本法で規定されている日本で唯一の公的な社会体育指導者で、市区町村の非常勤公務員として、行政と一体となり、スポーツ施策を推進します。

最近は、地域住民のスポーツ振興、さらには豊かな地域生活のため、従来の実技指導だけでなく、スポーツ振興施策の企画立案に参画するとともに、住民の身近な立場から、行政と地域住民との調整を図るコーディネーターとなっています。

（公益社団法人全国スポーツ推進委員連合のホームページから引用）

（２）　ラグビータウン熊谷の推進

現　状

昭和４２年（１９６７年）の国民体育大会開催に当たり、荒川緑地に２面のラグビー場を整備し、平成３年（１９９１年）には県営の熊谷ラグビー場が完成し、同年に策定した「熊谷市総合振興計画第二次基本計画」に市のイメージアップ事業の一つとして「ラグビータウン熊谷」を位置づけました。

小・中学生への普及を目的とするラグビースクールには、毎年約１００名の子供たちが参加しています。すべての小学校で体育の授業にタグラグビーを取り入れており、毎年１１月には国体開催記念熊谷市スポレクフェスティバルの中で、タグラグビー大会を開催しています。

中・高校生を対象とした熊谷市長杯７人制ラグビー大会では、県内の中学校・高等学校から多くのラグビー部が参加し熱戦を繰り広げています。

また、中学校では、小学生へのタグラグビー普及の効果もあり、平成２８年度（２０１６年度）には富士見中学校にラグビー部が新設され、市内の学校では中学校５校、高等学校３校にラグビー部があります。

平成２７年（２０１５年）３月にラグビーワールドカップ２０１９の熊谷開催が決定し、平成２８年度（２０１６年度）からは、アルカス熊谷との協働によるタグラグビー教室や教職員を対象としたタグラグビー指導者を養成するための講習会の開催をはじめ、インターネット動画サイト「熊谷ラグビー応援団」を開設し熊谷のラグビー情報を発信するなど、関係機関と連携しながら機運醸成等に取り組んでいます。

さらに、アルカス熊谷の小・中学生を中心とした女子ラグビー育成事業やパナソニックワイルドナイツの関連団体であるワイルドナイツスポーツプロモーション（W.K.S.P）による定期的なラグビー教室の開催など、ラグビーの普及啓発に向けた動きも活発化しています。

また、全国高等学校選抜ラグビーフットボール大会をはじめ、日本並びに関東ラグビーフットボール協会が主催する公式戦を埼玉県並びに熊谷市ラグビーフットボール協会と連携して開催するなど、トップレベルの試合を観戦しラグビーの楽しさを味わうことのできる機会を提供しています。

課　題

中学校の部活動では、ラグビー部の新設を含め指導体制の充実が図られていますが、小学校において、指導方法を含めたタグラグビー授業のさらなる充実が望まれます。

また、ラグビーに関する情報を積極的に発信して、より多くの市民の関心を高めるとともに、ラグビーワールドカップ開催後もそのレガシーを生かし、トップレベルの試合を誘致するなど、ラグビーに触れる機会を増やし、名実ともに「ラグビータウン」と称されるよう、ラグビーファンがあふれるまちづくりを目指していく必要があります。



タグラグビーの普及



全国高等学校選抜ラグビーフットボール大会

（３）　熊谷市スポーツ教室

現　状

スポーツの普及を目的として、主に初心者を対象に各種スポーツの教室を開催しています。実施は公益財団法人熊谷市体育協会に委託し、加盟団体がそれぞれの種目の教室を運営しています。平成２８年度（２０１６年度）には球技や武道など２２教室を６３会場で開催し、延べ2，４８９名が受講しました。

スポーツ教室は、普及を目的としているため初心者や初級者を対象とした内容になっていますが、一度だけでなく、翌年も参加して一層のレベルアップを目指す市民や、スポーツ教室への参加がきっかけとなりグループやチームに入ってスポーツを続ける市民も多く、スポーツの普及に大きな役割を果たしています。

課　題

種目によって参加申込者数に偏りがあり、参加希望者を全員受け入れられないといった状況の教室がある一方、思うように受講者が集まらない教室もあり課題となっています。

また、今まであまり運動をしていない人でも参加しやすいように、ニュースポーツや軽い運動等、種目の幅を広げていくことが求められています。

ニュースポーツ

ニュースポーツについて、定まった定義はありませんが、一般的には、２０世紀後半以降に新しく考案・紹介されたスポーツを指します。子供から高齢者まで、勝敗にこだわることなく、手軽に楽しむことを目的として考案されたスポーツで、近年の健康志向によって注目されつつあります。グラウンド・ゴルフやソフトバレーボールのように、既存のものを改変したスポーツ等が多くあります。

（４）　熊谷市スポーツ推進委員の活動

現　状

本市では、スポーツ基本法に基づき各小学校区等からの推薦により、６８名のスポーツ推進委員を委嘱しています。地域のスポーツコーディネーターとして、専門性を生かした活動が期待され、地域と行政とをつなぐ役割も担っています。「女性バレーボール親善大会」、「市民体力測定会」や「春スキーの集い」などのスポーツイベントの開催をはじめ、日頃市民に対しスポーツの指導・普及を行うとともに、スポーツの推進を図るために学校や公民館等で様々なスポーツ事業に協力しています。

課　題

様々なイベントに協力を求められることが多く、年間の活動回数が増えていますが、多忙化する中で地域の要望にどのように応えていくかが課題となっています。



市民体力測定会



女性バレーボール親善大会

（５）　熊谷市スポーツ・レクリエーション指導者バンク

現　状

スポーツの普及・振興にとって、指導者の果たす役割はたいへん大きいものです。本市では、市民からの指導者派遣の要請に応じて円滑に指導者を紹介し、スポーツ・レクリエーションの普及・振興を図ることを目的として、平成１３年度（２００１年度）から「スポーツ・レクリエーション指導者バンク」制度を設けています。

登録指導者は、公益財団法人熊谷市体育協会、熊谷市レクリエーション協会や熊谷市スポーツ少年団などの団体から推薦された方のほか、自薦の方もいます。指導者登録の申請を受け、熊谷市スポーツ・レクリエーション指導者バンク運営協議会の審査を経て名簿に登録され、任期は一期５年となっています。平成２９年（２０１７年）４月現在、３９種目に１３９名の指導者登録があります。

登録指導者名簿は、各学校や公民館等市の施設に設置してあり、市民が閲覧し指導者を探すことができます。また、公民館やＰＴＡ活動の一環としてスポーツやレクリエーションの講座を開催するときにも指導者バンクから指導者が派遣されているほか、中学校の外部指導者として部活動の指導にあたっていただいている方もあり、特に技術面での指導に貢献しています。

指導者バンクの制度を市民に知っていただくために、市報やホームページに指導者の派遣や登録についての案内を掲載しています。

課　題

指導に対して意欲的な方にたくさん登録していただいていますが、いかに登録指導者の方に指導の機会をつくり応えていくかが課題となっています。

図１２　熊谷市スポーツ・レクリエーション指導者バンク登録指導種目

（平成２９年（２０１７年）４月現在）

スポーツドクター	野球	ソフトボール	バスケットボール
バレーボール	サッカー	ラグビー	ソフトテニス
テニス	卓球	バドミントン	フットベースボール
体操	陸上競技	弓道	柔道
剣道	スケート	スキー	グラウンドゴルフ
ゲートボール	フライングディスク	スポーツ吹矢	少林寺拳法
野外活動	リズム体操	健康体操	民踊
エアロビクス	社交ダンス	太極拳	フォークダンス
ジャズダンス	フラダンス	音楽（吹奏楽・箏曲）	健身気功
骨盤ヨガ	ヨガ	タグラグビー	

（６）　新たなスポーツ文化への対応

現　状

熊谷市スポーツ熱中都市宣言の趣旨は、スポーツを「実践」することによる健康の保持増進や青少年の健全育成に資するという面ばかりでなく、見て「応援」する、「協力」して支えるという面にも重要な意義があり、これは、スポーツ立国戦略に示されたスポーツ文化としての捉え方と共通するものです。

スポーツ選手の活躍は、市民に感動の共有や夢と希望を与え、スポーツへの関心を高めます。また、スポーツの場では、選手同士はもとより、人と人、地域と地域、国と国、様々なレベルでの交流が生まれ、人々の相互理解にも重要な役割を果たします。

本市では、ラグビーワールドカップ２０１９をはじめ、大規模スポーツイベントが頻繁に開催される環境にあり、こうしたスポーツの価値や役割を認識し、熊谷ならではのスポーツ文化を目指します。

また、近年、政府の成長戦略におけるスポーツの成長産業化の位置付けや、各種大規模スポーツ大会の開催を背景に、スポーツを一つのコンテンツとして捉えた経済・地域の活性化への関心が高まっています。本市においても、熊谷さくらマラソン大会、ラグビートップリーグやサッカーＪリーグの開催によって、スポーツの参加や観戦を目的として来訪する観光客の誘致を行っています。

課　題

スポーツ推進を担当する部署が中心となり、市の各部局間の連携を現在よりもさらに密接で深いものとするとともに、スポーツ関係団体や企業、ＮＰＯ、大学、地域住民等との横断的な協働体制の構築が不可欠となります。

また、スポーツツーリズムの推進やスポーツイベントの誘致・開催を行い、トップアスリートの競技を間近で観戦し、スポーツの感動を共有する機会をつくるため、本市の経済・地域の活性化に向けたスポーツに関するワンストップ窓口サービス体制の構築について、検討を進める必要があります。

スポーツツーリズム

日本の持つ自然の多様性や環境を活用し、スポーツという新たなモチベーションを持った訪日外国人を取り込んでいくだけでなく、国内観光旅行における需要の喚起と、旅行消費の拡大、雇用の創出にも寄与するものある。

（「スポーツツーリズム推進基本方針（スポーツ・ツーリズム推進連絡会議）より引用」

５　スポーツ施設の現状と課題

（１）　公共スポーツ施設

現　状

本市には、陸上競技場やラグビー場、野球場、テニスコート、体育館など競技スポーツに対応することのできる施設から、市民が気軽に利用できるプールやジョギングコース、自由広場まで、多様なスポーツ施設が整備されています。

特に、熊谷スポーツ文化公園には、「彩の国まごころ国体」のメイン会場となった陸上競技場・屋内運動施設（くまがやドーム）やラグビー場があり、国内最高レベルの競技会が開催されています。

また、衝撃吸収性のある弾性ゴムチップ舗装のジョギングコースを、熊谷スポーツ文化公園や熊谷さくら運動公園のスポーツ施設のほか、別府沼公園、伊勢町ふれあい公園や籠原中央公園に整備し、ジョギングやウォーキングに盛んに利用されています。このほか、怪我の心配が少なく、安全で雨の日でも利用できるサッカー・ラグビー専用の人工芝グラウンドを「くまぴあ」に整備し、たいへんな人気施設となっています。

一方、体育館使用のニーズは、各団体の大会等や定期的な活動の会場としてたいへん高くなっていますが、時期によってはなかなか予約ができないという状況があります。スポーツに対する多様化するニーズに応えるため、多様なスポーツに対応できるような公共施設の整備が求められているとともに、既存施設の有効活用が期待されています。

課　題

老朽化が進み改修の必要な施設が多くなっています。財政状況が厳しい中で、施設を良好かつ効率的に維持管理していくことが求められており、施設の改修などにあたってはスポーツだけでなく文化、福祉や商業等のほかの分野の施設との複合化をあわせて検討する必要があります。

また、施設のバリアフリー化や市民のニーズに応じた整備を進めていくことも課題となっています。

（２）　学校体育施設開放

現　状

市立小中学校４５校の体育館と校庭を一般市民のスポーツの場として、学校の教育活動に支障のない範囲（平日の夜間、土曜日・日曜日の午前・午後・夜間）で、市民に開放しています。

体育館は、平日夜間にバレーボールやバスケットボール、卓球等で地域の方やＰＴＡのスポーツ活動によく利用されています。土曜日や日曜日には、午前・午後・夜間ともスポーツ少年団の活動や地域の団体によって利用されており、市内全体を合計すると、利用者は平成２８年度（２０１６年度）実績では延べ２７万人となっています。

校庭は、スポーツ少年団や子ども会の活動での利用が中心となっているほか、地域の体育祭やスポーツイベントの会場として利用されるなど、地域住民の交流の場としての役割も果たしています。

課　題

各学校体育施設の利用状況を全体的に把握し、施設の充実など利用者のニーズに合わせた運営が課題となっています。

（３）　民間のスポーツ施設

現　状

市内には、スポーツクラブやスイミングスクール、ゴルフ場などの民間のスポーツ施設があり、市民のスポーツの場となっています。

課　題

市の行事での民間スポーツ施設利用や指導者の交流等、連携を図っていくことが課題と考えられます。

図１３　市内の民間スポーツ施設の状況

種目名	箇所数	種目名	箇所数
ｽｲﾐﾝｸﾞｽｸｰﾙ	2	体操教室	7
テニスクラブ	1	空手道場	5
少林寺拳法道場	1	ボクシングジム	2
ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞｾﾝﾀｰ	8	ゴルフ練習場	8
ｺﾞﾙﾌｼｮｰﾄｺｰｽ	1	ゴルフ場	5
ﾊﾞｯﾃｨﾝｸﾞｾﾝﾀｰ	1		

※体操教室は、ダンス教室を含みます。

出典：平成２８年度（２０１６年度）市町村における生涯スポーツの実態等に関する調査